

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500406
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	新居浜市郷3-16-40
自己評価作成日	平成28年5月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の建物は、平成10年に建築され、今年で築18年を迎えた事もありハード面では家庭的であるとは言えません。しかしながら、自然に囲まれた環境と地域性に恵まれた暖かい雰囲気には自信があります。南側の三角公園には利用者の栽培する小さな畑と果実、四季折々の花が咲きホームに暮らす皆さんは、ここで季節感を感じ、地域の皆さんとの繋がりを持つ絶好のポイントになっています。支援する職員は、人間性を作る人材育成への参加や朝礼講和、木鶏会などを通して感謝の人間関係づくりをすることにより、いつも笑顔に溢れ「今と共に生きる」事を実施しています。学習療法に笑いヨガ、アロマテラピーによるフットケア、音楽療法と様々な角度からのケアを取り入れる事で少しでも利用者や家族に人生の終盤を豊かに笑顔で過ごして頂く事が出来るようにしています。あたり前の生活により近い暮らしを追求し、ケアと当たり前をうまく融合させた「自分らしさ」を持って生活して頂きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●居間のテーブルは、小さめのものから大きめのものが設置されており、利用者それぞれが利用しやすい席を使っている。利用者が活かしたあじさいの花が飾ってあった。猫を2匹飼っており、利用者は時々、猫のしぐさに目を細めていた。食事時には、BGMをかけていた。居間には神棚があり、利用者が育てたプラチマを初物としてお供えてあった。
●「地域密着型サービス協会」主催のチャレンジ事例発表の取り組みで優勝し、道後の日帰り温泉旅行10名分を獲得して利用者全員で日帰り旅行を楽しんだ。以前に松山に住んでいた方もいて「松山に来て良かった」と喜ばれた。
●今年は、利用者の状態に合わせてながら余暇を楽しむ支援に力を入れている。近所のヤギを見に散歩に出かけたり、年2回は日帰り旅行に出かけている。道後への日帰り旅行は、みなドレスアップして出かけ楽しんだ。吉海のバラ公園へ出かけ、来島海峡で海をみながら食事したこともある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム陽だまり

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

田中 加代

評価完了日

2016 年 5 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 陽だまりの理念は、「ゆったり笑顔で寄り添います。」キャッチフレーズには、「陽だまりは家族のような温かさ」を掲げ、いつでも目の届く所で確認することができる工夫をしています。また、実践の場面に於いて「利用者の笑顔のために」ケアを選択できているかなど評価やカンファレンスなどを通して行う事が共有に繋がっていると思う。</p> <p>(外部評価) 理念とキャッチフレーズを玄関や事務室に掲示している。職員が笑顔でケアを行えるように、職員トイレには「笑顔」と掲示している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 各種の自治会活動への協力や参加を日頃より実施している。日常に於いては、散歩時の挨拶や庭の手入れ、野菜作りの協力など様々な場面に於いて交流を持つ事ができている。ご近所からの野菜などの提供を頂く事もある。</p> <p>(外部評価) 法人内の地域交流カフェ開催時には、ひとりの利用者の方は、提供するカレー作りに協力している。事業所で作った野菜を販売することもある。自治会行事の、みぞ掃除や盆踊り、老人会に利用者も参加できるよう支援している。自治会からの要請で、今年度初めて法人全体で「福祉祭」を実施した。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域自治体の老人会への参加、出前講座、笑ヨガのインストラクターとして地域へ出向く機会がある。さらに認知症への支援として、地域交流サロンに設けられた「介護相談の日」や認知症と家族の会のお手伝いなどに参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 日頃様子をDVDにして参加者に見て頂くようにしている。運営への協力依頼や事業所からの報告事項なども同時に実施するようにしている。勉強会を兼ねたケアの取り組み状況をテーマ別に実施している。現在の入居者ご家族の状況により参加者が減少しており今年度より人員構成を見直して運営を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議には、家族、自治会の方、市職員等の参加がある。今年度は、会議の年間計画を作って「医療連携と看取りについて」「介護用品について」等のテーマに沿って会議をすすめている。テーマに沿って参加者を違えたり、系列事業所職員にも参加してもらっている。</p>	<p>利用者も会議に参加できるように取り組んでほしい。又、地域のいろいろな立場の方に会議参加を働きかけ、意見や感想等を聞きながら、さらなるサービス向上への取り組みにつなげてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 前年度は、マイナンバーの手続きや実施地指導が行われた事もあり、連絡を取ることで様々な確認を行い運営に反映されるようにした。また、運営推進会議において市役所からの新しい制度や取組みについて(マイナンバー・見守りネット・ボランティア)の説明の場所としてお願いしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議への参加や、生活保護の方の生活についてのやり取りで協力がある。今年度は、運営推進会議時に「徘徊ネットワーク」について講師をお願いしている。介護相談員の訪問が2ヶ月に1回あり、利用者の話を聞いてくれる。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠は、夜間の職員が1名体制になる時間のみ実施している。身体拘束についての勉強会は年1回は必ず実施している。様々な策を講じても拘束に該当する行為をしなければならぬ事例が1件あったが、ご家族・医師・施設と相談をすすめ現在ではほぼ身体拘束の必要性がなくなっている。また、職員は人材育成にてスピーチロックの危険性についても学ぶ機会があった。</p> <p>(外部評価) 法人内・事業所内で、それぞれ年に1回ずつ身体拘束についての研修を実施している。食事介助が必要な利用者については、エプロンを着けても「手が自由に動かせるように」等、管理者はその時々職員にアドバイスをしている。</p>	<p></p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止についての勉強会は、年1回は必ず実施している。また、その防止策として対応の厳しい時の職員間の連携や夜間1名体制の際の対策を必要に応じて実施する事により各職員が精神的に追い込まれない工夫を実施している。利用者への人としての理解、病気としての理解を深めることを実施。職員、利用者との感謝の関係づくりが虐待防止に努める事につながっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について学ぶ機会をミーティングなどを通して設けている。ご利用者のバックボーンに応じて、随時ご家族との相談を頂き役所等と連携し、継続して生活を送ることができるようになっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の前にじっくりと説明する機会を設けている。ご家族の不安な点についても予め確認している上に、ご家族としての協力体制として出来ることできないことについても確認を実施するようにしている。直近では食費についての改訂があり、食費のうちわけやホームの方針などをお伝えし同意を頂くことができています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱の設置を行っている。そのほかにも、運営推進会議や年に1回は家族カンファレンスを定期づけている。それ以外にもご家族様には、随時話をする機会を設けた上で方針等の確認や要望を聞いている。遠方であったり多忙のご家族様の要望により昨年より連絡方法として携帯のメールによる連絡を取り入れている。 (外部評価) 年間行事の「お花見」「ソーメン流し」「いもたき会」等に、家族の参加を呼び掛けているが、参加する家族は固定化の傾向にある。調査訪問日、家族の来訪があり、管理者が利用者の様子を報告して今後のケア方針について話し合っていた。昨年からの報告のあり方について希望を聞き、3名の方は携帯電話のメールを使用して報告を行っている。	多忙な家族についても、事業所サービスへの意見や要望を引き出せるよう工夫できないだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 職員からの意見については、毎日の申し送りで意見を出す機会を設けている。月1回のミーティングへの検討議題シートを提出する際に口頭では伝えにくい意見や提案については、記載することで管理者へ届く仕組みをとっている。また、「マイケアプラン」を利用した面談がきく機会となっている。設備環境面での改善案や勤務体制への意見などあり、反映することがあった。</p> <p>(外部評価) 「以前は麻雀や花札をしたことがある」と話す利用者があることをきっかけに、職員からの提案で、トランプ遊びを採り入れている。調査訪問日の午後は、笑いヨガのインストラクター資格のある職員が中心となり、レクリエーションを行っており、笑い声が聞こえていた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 法人では適宜、処遇についての説明が行われている。資格の取得状況や役割に応じた給与水準が設けられている。研修の頻度や会議の量などへの配慮もあり、各自のモチベーションを維持するだけの整備が出来ていると感じている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 法人全体として、人材育成・勉強会の設定・研修計画がある。またその評価によっては、現場での教育の方向性等を管理者1人だけでなく、法人の組織の管理者などに相談することのできる体制ができています。そういった環境の中で職員は、ケアに向き合いながらトレーニングしていく事が出来る。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) リーダー研修に来た同業他事業所の職員と交流する機会がある。他にも、見学や研修を通しての訪問や学習療法の勉強会などによる横のつながりを大切にしている。また、同法人の他事業所とも連携が取れており、旅行・バレー大会などを合同実施していることで、サービスの質の向上につながっている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) ご本人のリロケーションダメージを少なくする為に入所前より関係性を作ることで出来るよう訪問したり、来ていただく事もある。ご本人の生活スタイルを必ず確認している。大切にしている事や物などを見極めて差し上げる事が安心に繋がると考えて取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、必ずご家族様にはホームに足を運んでいただくようにしている。ホームの様子や環境を確認して頂きながら、傾聴する事を心掛けている。リスクの説明や出来る支援への説明を欠かさないようにする事で関係づくりを一つづつ行う。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 聞き取りなどの中から、ご家族の希望する支援を見極めるようにしている。グループホームへの適応も含めて検討した上で対応するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 認知症の共同生活を行うに当たり、一方的な介護になるのではなく、自分らしさとは何かを探り、役割を持って職員と入居者が「共に生きる」という事を大切にしている。「ありがとう」という感謝の関係づくりが相互の関係づくりになっている。入居者同士のきずなや思いやりも活かせるように職員が調整役として関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 大切なご家族の支えを施設に入った後も、得ることができるように施設としてのご家族参加の行事設定を行っている。他にも、来所しやすい雰囲気づくりや場所づくりを行うようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のグループホームであることを活かし、ご家族様の了解を得た上で馴染みの場所へ出かけたたり、地域の老人会へ参加ししている。ケアハウスより転居された方については、行事などと合わせて行くことができるようにしている。また、デイへ友人に会いに行く事や故郷訪問を実施している。 (外部評価) 「地域密着型サービス協会」主催のチャレンジ事例発表の取り組みで優勝し、道後の日帰り温泉旅行10名分を獲得して利用者全員で日帰り旅行を楽しんだ。以前に松山に住んでいた方もいて「松山に来て良かった」と喜ばれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 症状や身体状況に差がある中で、行事やレクリエーション、それぞれの役割や一緒に行う家事などにより、それぞれの距離感が成立している。個性を生かしながら、職員は緩衝剤になり刺激剤になりつつ利用者同士という空気感を維持できるようにしている。強い影響をお互いに及ぼす可能性のある時は、職員が配慮に努め関係性が成立するようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設等への移動による契約終了の場合は、十分な情報提供を実施している。また、ご逝去による契約終了時も、ご家族のグリーフケアを含め利用期間での意見や感想なども伺いたした上で、必要に応じて様々な相談に乗っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成や見直し、評価などの際に今お1人お1人に合ったサービスが提供できているか、思いや希望がずれていないかを考え話し合うようにしている。他にも、学習療法の時間などを利用して本人の思いをお聞きし、できるだけ実現できるようにしている。食堂がしたいという方は、法人内の地域交流サロンで月1回カレーを出し接客することで本人の希望に近づく事ができるようにしている。 (外部評価) 洗濯物の取り入れを日課としたり、畑仕事のお好きな方には庭のスペースで野菜作りを楽しめるよう支援している。囲いをして土地を高くして菜園を作っており、車いすでも作業しやすいように工夫している。入居間もない利用者について、管理者は、「利用者本人についてどのようなことが知りたいか」を職員に聞き、学習療法時に探る等して情報を記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしの中でサービスを利用している時は、情報を頂いている。生活歴や馴染みの暮らしを聞き取りしている。大切にしている習慣や、道具などについても持ちこんで頂いたり習慣を出来る限り尊重するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 食事の時間や活動の時間帯に至るまで可能な範囲で個々の過ごし方を選択して頂くと共に、集団でいる事のメリットも忘れずにメリハリをつけて生活して頂けるように臨機応変な対応に努めている。心身の状況についても記録や身体モニタリングなどにより把握できる仕組みを利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月1回のケアプランの評価を実施している。評価は毎月、担当職員からの手紙を添えて報告できる仕組みをとっている。さらに、特別カンファレンスの必要性がない場合でも年に1回はご家族環境の変化や心境、方針の確認などを行う機会を設けている。見直しについても6か月に1回の割合で介護支援専門員が中心となり見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) ケアマネジャーが、担当職員、利用者、家族から意見を聞きとり介護計画を作成している。月1回、利用者それぞれの担当職員がサービス内容を◎○△等5種類の記号で評価し、「なぜできなかったのか」「実施できてどうだったか」等のコメントを記入している。家族には毎月送付しており、年1回、話し合う機会を設けている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常の記録を実践や評価に活かす仕組みを作っている。定着しており、随時実践に活かすことができている。毎日というスパンと毎月というスパンの両者において気づきにはじまり、ケアの変更点注意点などが適格に情報共有することが出来ている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族様と相談しながら出来る範囲で対応方法を検討した運営の実施に取り組んでいる。例えば、着物を正月に着たいという方には、着物で過ぎて頂いた。また、病院の受診には身体状況に応じて対応させて頂いている。止むを得ない場合は、家政婦などの派遣機関の紹介と手続きへの橋渡しなども実施している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域交流サロンおひさまの活用により、身体的に自立のある方については、カフェスタッフとして働いて頂いたり、ワークキャンプの学生のお世話に参加するなどしている。他にも地域の方による絵手紙教室、音楽療法などを取り入れている。地域自治体の活動にも積極的に参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入所時に、ご家族の医療についての確認を十分に行っている。その上で、往診医か現存のかかりつけ医か、複合型かという選択肢を提供している。またホームとして出来ることできないことについても説明している。ただし、家族と本人をとりまく様々な状況の変化によって、都度相談している。いずれのパターンについても医師への情報提供も行っている。</p> <p>(外部評価) 受診は家族対応となっているが、車いすを利用する方については、病院までの送迎を職員が行っている。家族、利用者の不安がある場合等は、家族が協力医と話をする機会を設けている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護・介護ともに儀用務日誌を活用し、情報の提供を実施するようにしている。看護・介護ともに両者の記録や申し送りを確認する仕組みをとっており、それぞれが適切に情報を共有することで利用者への支援が行えている。看護師は、医師へ対してもファックスなどによる報告連絡相談を随時実施し、ホームへフィードバックできている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時については、介護サマリの利用をしている。ご家族様に応じて状況の詳細説明などが難しい場合は、同行支援も実施している。また、よく利用する医療機関に応じては、半年に1回の「地域医療連絡会」などに参加し要望を上げたり、意見交換をする事で関係づくりをすすめている。また、SWの方に施設見学をしていただいている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時より「看取りの体制」についての説明を実施している。意向確認書の作成を行っている。また、看取りの勉強会の実施によりご家族様にも考える機会を設けている。さらに、末期になってきた場合は、家族や医師と話し合う機会を持つことによって方向性を決定しながら進めている。</p> <p>(外部評価) 看取りの過程を4段階で示して家族に具体的に説明を行っている。必要時には緩和ケア等の資料を用意することもある。法人では看取り支援についての勉強会を実施しており、職員が参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職場内の研修を利用して緊急時の対応については、一般的な対応と個別の特性に合わせた対応を実施している。緊急時の連絡体制・判断基準も業務日誌ファイルにより各職員がすぐに確認できるようにしている。昨年度は、消防署の応急処置の研修へ一部の職員が参加することができている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 1年に2回の総合避難訓練と、地震想定の実施を3/1・9/1に実施している。今年、6/8に水防訓練の実施を予定している。熊本地震後は、こまかい確認書類の作成や、職員全員のスプリンクラーのバルブ停止方法を確認するなどの訓練も行っている。また、火災対策として1年に1回はコンセントの整備と清掃を実施。 (外部評価) 火災・地震想定の実施を年2回実施しており、建物外へ避難する訓練を行っている。訓練日には、備蓄の非常食を試食して、柔らかい非常食を増やした。今後は、水防訓練で土のうを積み訓練を行う予定がある。自動通報装置には地域の方2名を登録しており、協力してくれることになっている。訓練後は、意見や気付きを用紙に記入して全体で検討して改善に取り組んでいる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 学習療法を実施しているが、その中でお1人お1人が大切にしている生き方であったりこだわりに気づかされることが多い。生活の中でも常に「エール」を送る事を忘れずに「人生の先輩」であることを大切にしてお話をおかしている。 法人の理念にもある利用者と共にというスタンスで一緒に生きる時間を共にする「感謝」の気持ちで対応するように心がけている。 (外部評価) 居室で食事することを好む利用者には、普段は居室で食事できるよう支援するが、外での青空ランチやカフェの時には他利用者と一緒に食事できるよう支援している。職員は、利用者の部屋に入る時にはノックをしてから入室している。料理が得意な利用者には、ワークキャンプで来た中学生と一緒に食事を作る担当になってもらった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定・自己選択については、認知症の症状や程度によって出来ない事があるが、できるだけ意思を確認するようにしている。できない場合は、その方の習慣や背景によってより意思に近いであろう決定ができるようにしている。また、学習療法という個別の時間を使っての思いや希望を聞くことの出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしいとは、「その人が選択する一つ一つの事」である。お1人おとりが選択できる場面を1つでも作る事ができるようにしている。一日のホームでの生活には、ある程度のパターンがあるが、その方やその日にあった支援を柔軟に展開できるようにしている。 年齢や体調に合わせても都度対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝、必ずご自分で鏡を見て整容して頂けるようにしている。ご本人様の希望も聞きながら季節や場所にあった衣類やおしゃれをすることができている。また、ご家族様に衣類の調整や入れ替えもお願いしており、好みのものを用意できるようにしている。ホームから、一緒に買い物に行き自分の衣類を購入される場合もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の身体状況や嗜好に合わせて食事の内容を提供できるようにしている。さんまの炭火焼をテラスで実施。いつもは、骨なしの魚の提供だが、さんまは骨を残して見事に皆さんが召し上がっている事があった。他にも誕生日に合わせたメニューやホットプレートを使った料理や外食も盛り込んでいる。音楽を利用した雰囲気づくりも実施。花見や青空ランチも実施している。	
			(外部評価) パンの好きな方が多く、週2～3回は朝食をパン食にしている。魚が苦手な方も青空ランチの時には食べたり、焼きそばやお好み焼きをホットプレートで調理すると、見てとても喜ばれるようだ。昼食後に、職員が、「片づけのできる方はお願いします」と声をかけると、利用者の中には、下膳したり、洗い物をする方がいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士による献立を利用している。食材の担当職員がご利用者に合わせたの献立チェックを実施している。水分量については、水分管理専用の担当者がおり、推移を確認している。また、一日1500ccを目標としている。体調に応じて食事形態への対応は施設調理では限界があり、やわらか食については外部へ委託している。糖尿の入居者についてもカロリー管理の実施により改善。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一日3回の口腔ケアの実施。職員が口腔内の状態を確認し、歯科衛生士や歯科医へ繋いでいる。定期的に往診の歯科医がきている。道具や方法についてのレクチャーも同時にうけている。入居者によって支援の方法もそれぞれ対応。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>水分・食事・運動によって自然な排便ができる事を目標に取り組んでいる。日常チェック表によって排泄状況を把握し、失禁が増えると時間帯や回数。病気など原因を考えてケアを実施している。できるだけトイレや布パンツ+パッドを使用しての生活を支援。本人の羞恥心への配慮で介入しすぎないようにする事も実施。104歳の入居者については、トイレの改修工事を行い自分で使用する事ができるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄チェック表に記録して、誘導・見守りを行い、基本的には布パンツとパッドで過ごせるよう支援している。頻繁にトイレに行く方については、本人の疲れも見られるため、専用のチェック表で統計を取り、医師と相談してコントロールしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>個人、個人に合わせた水分量の確保と、食事以外にもファイバーやセンナ茶の使用、さらには必要に応じての薬の使用をすることで定期的に排便する事ができるように支援している。その為の検討や記録、申し送りを状況により判断しながらコントロールするようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>希望に添えない場合もあるが、体調や希望によっては随時対応するようにしている。支援方法についても、個々に合わせた見守りや介助方法で支援することが出来ている。また、入浴が楽しめるようにゆず湯やしょうぶ湯に入っている。昨年度は、道後の大和屋の温泉に入ることが出来た方もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>浴槽は利用者が入りやすいよう、中の高さを調節している。午後からが入浴時間になっており、全員が浴槽で温まれるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>寝具については、自分のこだわりの物がある方は使用して頂いている。暗さについても個人の好みに対応している。スムーズに入眠できるようにアロマミストを使ったり、室温にも気をつけて環境づくりしている。日中についても体調や状態に応じて30分くらいの目安で休息を取られる方もいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬については、看護師が用法容量についての把握をし、配薬を管理している。また、変更のある場合には都度周知する体制を作っている。事務所や業務日誌に、職員がいつでも目につく位置に各自の服薬状況についての一覧表がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者は、それぞれの体調や状況、趣味に合わせて気分転換することができている。ホーム内でのレクリエーションでも個別性を活かすことができるように配慮する。さらに、重度でもお姉さんが月1回あいに来ることが楽しみであったり、まだ出来る事(几帳面な性格を活かして)自室の扉は自分で閉めて頂くなど、小さな事1つ1つからでも「ありがとう」の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望をすぐに聞く事は難しい事もある。しかし、日帰り旅行などは、行先の希望を訪ねたり、「新聞にでとったわ」という花の名所へ出かけたりしている。最近では、日帰りで吉海ばら園へ出かけている。ホームのプログラムとして「歩け歩け大会」やお椿さんにも出かけている。個別のケアとしてお誕生月のふるさとめぐりをする事もある。	
			(外部評価) 今年は、利用者の状態に合わせてながら余暇を楽しむ支援に力をいれている。近所のヤギを見に散歩に出かけたり、年2回は日帰り旅行に出かけている。道後への日帰り旅行は、みなドレスアップして出かけ楽しんだ。吉海のバラ公園へ出かけ、来島海峡で海をみながら食事したこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金については、お預かり金としてホームで管理しています。日帰り旅行やお椿さんなどの際にはおこずかいとしてそこからお渡しし、思い思いに買い物やされます。ご家族様が財布におこずかいを入れておられ、日常的に使用することができるようにしている方もおられます。月に1回の移動販売号や地域交流サロンでのマルシェで自由に買い物を楽しまれます。他にも、夢ポイント集めでマルシェの商品と交換ができるカードをお持ちの方もおられます。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 公衆電話の設置はありません。希望者には、ホームの固定電話を使用して頂いています。ご家族様からの電話も取り次いでいます。携帯電話をお持ちの方もおり、直接ご家族様とやりとりされています。また、月1回の絵手紙教室でできたハガキを送ったり、高校生との交換や年賀状作成もしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 建物は、築19年ということもあり設備修繕を計画的におこないつつ、入居者にとって不快な要素を少しでもなくす事ができるようにしている。共用のスペースは南北に解放されており、季節や一日のうつろいを感じることができる空間となっている。</p> <p>(外部評価) 居間のテーブルは、小さめのものから大きめものが設置されており、利用者それぞれが利用しやすい席を使っている。利用者が活けたあじさいの花が飾ってあった。猫を2匹飼っており、利用者は時々、猫のしぐさに目を細めていた。食事時には、BGMをかけていた。居間には神棚があり、利用者が育てたプチトマトを初物としてお供えしてあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の空間であるリビングについては、ソファの配置や場所の工夫により選択肢があるようにしている。人によっては、お気に入りのポジションがあり固定でないと落ち着かない場合もあるため職員が調整を行っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室については、小さい空間でありながらご本人が一番落ち着く事ができるように馴染みの道具や仏壇を持ちこまれており、自分らしい空間にする事ができるようにしている。安全面で居室のしつらえを調整する必要がある場合は、ご家族と相談して対応している。和室や洋間についてのご希望についても対応している。</p> <p>(外部評価) フローリングの部屋と畳の部屋があり、本人の希望と身体状態で選んでいる。洋服をたくさん持ち込んでいる方があり、本人に好きなように片づけてもらって、その後で職員がサポートしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ご利用者の生活の場で働かせて頂いている事に感謝しながら、お1人お1人がわかりやすく安全な生活が送れるように工夫している。表示位置の高さや、しらえにも気を配るようにしている。また、清潔面についても安全に過ごすことができるように心がけている。</p>	